

(作目別) 総合防除実践マニュアル
ナシ編

ナシの総合防除体系 病害編

耕種的防除 生物的防除
物理的防除 化学的防除

- 病害ごとの対策例をお示しします。防除法の選択肢の参考としてご活用ください。
- なお栽培暦は一般化したものではなく、特定の産地（関東地域）を想定して作成したものです。
- 実際には地域の指導機関の指導に従ってください。

①～⑥の防除法については、P5以降で解説しています。

病害	休眠期	発芽・展葉・開花・結実	生育期（果実肥大）	収穫期	収穫後
	9月～3月	3月～4月下旬	～	8月上旬～9月中旬	～
赤星病	園地及びその周辺へのビャクシン類の植栽を避ける	適期の薬剤散布（予防剤を基本に）			
黒星病	薬剤石灰硫黄合剤の散布	①適期の薬剤散布 <防除支援情報システムによる予察> 農薬のローテーション散布	予防剤と治療剤を併用できることを念頭に選択		②落葉処理・処分（またはすき込み）
			発病果の除去・処分		
黒斑病	窒素過多を避ける 風通しを良くする	雌しべの除去	早期の袋掛け	抵抗性品種の利用	
		適期の薬剤散布（予防剤を基本に）			
輪紋病	粗皮削り	適期の薬剤散布		早期の袋掛け	発病果・枝の除去・処分
白紋羽病	薬剤による防除（フロンサイド水和剤）	③罹病の早期診断（枝挿入法）			発病樹の早期除去
		④温水治療			
炭疽病		適期の薬剤散布		落葉処理・処分（またはすき込み）	
		(例) 5月末・6月末に殺菌剤による防除@千葉県			

※本図は、耕種的・生物的・物理的防除を中心に示していますが、化学的防除（農薬）も適切に組み合わせて対応しましょう

ナシの総合防除体系 害虫編 1/2

耕種的防除 生物的防除
物理的防除 化学的防除

- 害虫ごとの対策例をお示しします。防除法の選択肢の参考としてご活用ください。
- なお栽培暦は一般化したものではなく、特定の産地（関東地域）を想定して作成したものです。
- 実際には地域の指導機関の指導に従ってください。

①～⑥の防除法については、P5以降で解説しています。

害虫	休眠期	発芽・展葉・開花・結実	生育期（果実肥大）	収穫期	収穫後
	9月～3月	3月～4月下旬	～	8月上旬～9月中旬	～
アブラムシ類		発生初期の薬剤散布 農薬のローテーション散布 下草・雑草管理			
カイガラムシ類	粗皮削り	気門封鎖剤の使用 (剪定終了後)	適期の薬剤散布	クワコナカイガラムシ：4月～5月上旬 フジコナカイガラムシ：5月下旬～6月上中旬 が防除適期	
シンクイムシ類	冬季の表土耕起 (モモシンクイガに限る)	⑥多目的防災網の設置 は設置面積にかかわらず 効果的な防除となる	適期の薬剤散布/農薬のローテーション散布	⑥多目的防災網の設置 は設置面積にかかわらず 効果的な防除となる 袋掛けの実施 不要な徒長枝の切除	⑥多目的防災網の設置 は設置面積にかかわらず 効果的な防除となる 地域一帯で10ha以上の使用が望ましい
ハマキムシ類	越冬幼虫 の捕殺		適期の薬剤散布（若齢幼虫期） 農薬のローテーション散布	⑥多目的防災網の設置 は設置面積にかかわらず 効果的な防除となる 地域一帯で10ha以上の使用が望ましい	

※本図は、耕種的・生物的・物理的防除を中心に示していますが、化学的防除（農薬）も適切に組み合わせて対応しましょう

ナシの総合防除体系 害虫編 2/2

耕種的防除 生物的防除
物理的防除 化学的防除

- 害虫ごとの対策例をお示しします。防除法の選択肢の参考としてご活用ください。
- なお栽培暦は一般化したものではなく、特定の産地（関東地域）を想定して作成したものです。
- 実際には地域の指導機関の指導に従ってください。

①～⑥の防除法については、P5以降で解説しています。

害虫	休眠期	発芽・展葉・開花・結実	生育期（果実肥大）	収穫期	収穫後
	9月～3月	3月～4月下旬	～	8月上旬～9月中旬	～
ハダニ類	⑥多目的防災網の設置*	⑤土着天敵・天敵製剤（ミヤコカブリダニ、スワルスキーカブリダニ*）の利用	下草・雑草の管理（株元草生） 選択性殺虫剤の使用・農薬のローテーション散布 気門封鎖剤の使用	*スワルスキーカブリダニは施設栽培かつミカンハダニに対する登録	
ニセナシサビダニ		新葉の観察→適期の薬剤散布	被害葉は褐変・変形し、多くの場合モザイク症状を併発する。進行により早期落葉もあり。昨年被害のあった圃場では薬剤散布の徹底を推奨。		
果樹カメムシ類	⑥多目的防災網の設置		発生予察情報の確認→適期の薬剤散布 収穫期前の薬剤散布 農薬のローテーション散布	(例) 成虫は5月中旬頃から飛来。7月下旬～8月下旬が発生最盛期。@群馬県	
チャノキイロアザミウマ			発生予察情報の確認→適期の薬剤散布 選択性殺虫剤の使用・農薬のローテーション散布		⑤土着天敵（カブリダニ類・ヒメハナカメムシ類等）の利用

※本図は、耕種的・生物的・物理的防除を中心に示していますが、化学的防除（農薬）も適切に組み合わせて対応しましょう

総合防除に資する技術（化学農薬を除く）の解説

① 防除支援システム（梨病害防除ナビゲーション/梨なびアプリ）

判断

対象病虫害：黒星病

技術概要

ナシ黒星病防除支援システム（千葉県開発）は、気象データや過去の散布履歴等を取り込み、感染危険度を見える化し、適期防除の判断・管理を支援するツール。

作業時期 生育期

- 作業手順
1. 基本情報の設定：圃場所在地の入力や気象データソース（アメダス/センサデータ）との連携設定等を実施
 2. 感染危険度の確認：システムにより感染危険度がカレンダー上に表示されるため随時確認
 3. 防除の判断：感染危険度や残効が切れる日を確認し、薬剤散布のタイミングを判断
 4. 防除履歴の入力：散布した農薬・日時・残効期間をアプリに登録。継続的な防除判断に反映

作業のコツ・注意点

- 残効期間が切れる前に降雨がある場合には、天候回復後、残効期間が切れるのを待たずに薬剤散布をする必要がある
- 圃場に温度・湿度センサがあり、データ連携が可能な場合は、実施したほうが感染危険度の予測精度が向上する

コスト

項目	コスト
アプリ利用料・システム利用料	無償（※千葉県において：2025年時点）

適用条件

- ✓ PC又はスマートフォンなどが使用可能であること
- ✓ 適用地域：千葉県※
（※一部他県で、本技術の自県適用を確認している事例あり。自地域での利用が可能どうか、まずは自地域の指導機関への問合せが必要）

② 落葉処理

耕種的防除

対象病虫害：黒星病

技術概要

落葉（罹病葉）を粉碎・すき込み・持出などで適切に処理をすることで、落葉から飛散する感染源を減らし、ナシ黒星病の発生を軽減する。

作業時期 落葉前及び収穫後

作業手順

1. 落葉前の準備：落葉前に幹元・園地外周部を除草（かき出し作業を容易にする）
2. 落葉のかき出し：落葉後、熊手やプロウ等で、機械走行路にかき出す
3. 以下のいずれかで（または組み合わせて）処理する

① 粉碎処理 （乗用草刈機）	② 中耕すき込み （ロータリー）	③ 粉碎・中耕すき込み （乗用草刈機・ロータリー）	④ 収集・持出し （プロウ、熊手等）
<ul style="list-style-type: none"> • 1回あたり45分/10aで粉碎。 • 同一園地で2回以上の実施を推奨。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1時間45分/10a • 正転、深さ5cm程度ですき込み。 • 同一園地で1回実施。 	<ul style="list-style-type: none"> • 粉碎30分/10a + すき込み45～60分/10a。 • 同一園地で1回実施。 	<ul style="list-style-type: none"> • 完全落葉後に集め残しなく実施。 • 園地外で適切に処分。

作業のコツ・注意点

- 外周部・幹元・側溝に落葉が残りやすいため、重点的に処理する
- 粉碎処理は2回以上でより高い効果が見込める
- すき込みは正転・深さ5cm・低速で、確実に実施することがポイント
- すき込みを行う場合は、剪定枝チップのすき込みを控える（白紋羽病の発生を助長するおそれがある）

コスト（作業負荷）

作業	所要時間
処理にかかる時間（目安）	粉碎：1回あたり45分/10a、すき込み：1時間45分/10a

適用条件

- ✓ 自身又は周囲の圃場でナシ黒星病の発生がみられること
- ✓ 乗用草刈機・ロータリー・熊手やプロウ等の機械や道具を所持又は利用が可能であること
- ✓ 栽培終了後に、処理の作業時間の確保が可能であること

総合防除に資する技術（化学農薬を除く）の解説

③ 白紋羽病罹患の早期診断（簡易挿入法）

判断

対象病害虫：白紋羽病

技術概要

ナシ樹の株元土壤に剪定枝を一定期間挿入し、回収後に枝へ付着した白紋羽病菌糸の有無を観察することで感染を判定する簡易診断法。

作業時期 5月～10月ごろ（※夏季の高温乾燥時は避ける）

- 作業手順
1. 枝の準備：直径1～2cm程度で真っすぐな樹木枝（クワ・カキ・モモ・ナシ・リンゴのいずれか）を30～35cm程度で切断し、先端を鋭角にする
 2. 枝の挿入：主幹から10cm以内の位置に約25cm土中に真っすぐ挿入
 3. 放置：挿入後は20～30日放置
 4. 抜き取り・観察：その後引き抜き、枝表面に白～灰色の綿毛状・筋状（膜状）の菌糸の付着があれば感染と診断

作業のコツ・注意点

- ・ 剪定枝を使用する場合は、ビニール袋に入れ冷蔵庫で保存するなど、乾燥しないようにする
- ・ 長雨や高温乾燥時は菌糸の補足効率が低下するため、長め（30日程度）放置する
- ・ 挿入期間の途中で抜かないこと
- ・ 診断に用いた枝は伝染源となるため、必ず園外で適切に処分する

コスト

資材	コスト
-（特段の資材は不要）	-

適用条件

- ✓ 白紋羽病の罹病樹や枯死樹の周辺にある外見が健全な樹（症状がはっきり表れている樹は既に手遅れの場合が多い）
- ✓ 処理対象樹の選定や温水治療やフロンサイドSC等の処理効果を確認を目的とするとき
- ✓ 改植予定園地内での伐根前の発生状況の確認を目的とするとき

④ 白紋羽病の温水治療

物理的防除

対象病害虫：白紋羽病

技術概要

白紋羽病が熱に弱い性質を利用し、罹病したナシ樹の周辺土壤に50℃の温水を点滴し、地温を35～45℃に維持することで、病原菌を殺菌し治療する。

作業時期 6月～10月（※休眠期でも処理は可能だが効率は低下する）

- 作業手順
1. 点滴器具の準備：市販の灌水用天敵チューブとコネクタ等を組み立てる
 2. 点滴器具の設置：処理対象樹を中心に両側から挟むように点滴チューブを設置する
 3. 被覆：設置後、点滴器具全面をマルチ等で被覆する
 4. 温水の送水：50℃の温水を送水し、地下10cm・30cmの地温を測定する複数箇所）
 5. 温度の確認：地下30cmの全点で35℃以上又は地下10cmのいずれかで45℃以上になれば処理が完了（所要約4～6時間程度）

作業のコツ・注意点

- ・ 地温測定は必ず実施すること
- ・ 高温障害回避のために、過剰な温水供給や長時間処理を避ける
- ・ 園地の斜度が10度を超えると滴下水が流れ落ちやすく、地温上昇が不足する可能性があるため、設置方法の工夫が必要
- ・ 症状の重い樹は治療後も回復せず枯死することが多いため、症状の軽い樹を対象とすること

コスト

機器・資材	コスト
温水処理機・二輪運搬車・点滴チューブ	約160万円/1式

適用条件

- ✓ 圃場に電源及び水源があること（水源：スピードスプレーヤー等 / 電源：発電機等で代用）
- ✓ 自身の地域で温水処理機等一式の調達が可能であること
- ✓ 軽度の症状の樹あるいは感染が疑われる樹に適用

総合防除に資する技術（化学農薬を除く）の解説

⑤ 天敵（土着/製剤）の利用

生物的防除

対象病虫害：ハダニ類（及びチャノキイロアザミウマ ※副次的効果）

技術概要

ナシ園地に生息する土着天敵（カブリダニ類）の保護・強化及び天敵製剤（ミヤコカブリダニ）の放飼利用により、ハダニ類（及びチャノキイロアザミウマ）の密度を抑制。

作業時期

天敵放飼：生育期（梅雨明け前後）
草生管理・選択性殺虫剤の利用：発芽～生育期

作業手順

1. 草生栽培：下草管理・株元草生を実施→土着天敵の住処・餌場となる
2. 製剤の設置：天敵製剤をバンカーシート等により樹上に設置
3. 選択性殺虫剤の利用：天敵に影響の少ない薬剤を選定し利用
→天敵（土着/製剤）の保護・定着の促進

作業のコツ・注意点

- 草生栽培においては、刈りすぎに注意し、適度な草丈（8～10cm）を保つ。特に株元に残しておくことがポイント
- 展葉時期の5、6月頃に下草の除草を実施しないこと（下草にいたハダニ類が樹上にあがってきてしまうため）
- 天敵製剤の設置はハダニ発生前に実施する

<対象害虫及び天敵昆虫>

- ハダニ類：ミヤコカブリダニ（製剤/土着）、ニセラゴカブリダニ（土着）→本技術のメイン
- チャノキイロアザミウマ：カブリダニ類・ハナカメムシ類（土着）
→チャノキイロアザミウマは草生栽培・土着天敵利用の環境で副次的に防除される

コスト

資材	コスト
天敵製剤（ミヤコカブリダニ製剤）	約3～4万円/10a

適用条件

- ✓ 適切な草生栽培が可能であること
- ✓ 天敵に影響の少ない選択性殺虫剤の利用が可能であること
- ✓ 自身の地域で天敵製剤の調達が可能であること

⑥ 多目的防災網＋交信かく乱剤の利用

生物的防除

物理的防除 化学的防除

対象病虫害：果樹カメムシ類、
シンクイムシ類、ハマキムシ類、ハダニ類

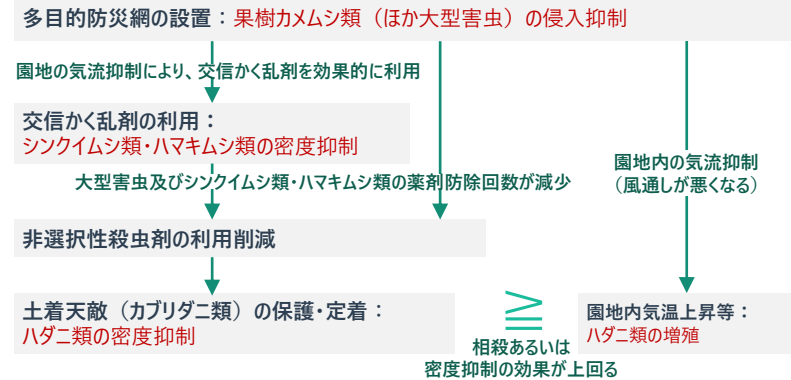
技術概要

多目的防災網の利用を前提として交信かく乱剤の利用を組み合わせることで、各害虫の密度を抑制する。

作業時期

多目的防災網：4月下旬頃
交信かく乱剤：5～6月頃（害虫発生時期に合わせて設置）

技術内容



コスト

資材	コスト
多目的防災網	約110万円/10a（設置工事費含まず）
対象病虫害用の交信かく乱剤（100本/10a）	約1万円/10a

適用条件

- ✓ 多目的防災網の展張が可能であること

(参考) 技術資料リンク

No.	技術名	対象病害虫	資料名・リンク
①	防除支援システム	黒星病	千葉県「ナシ病害防除支援情報システム『梨病害防除ナビゲーション』」
			福島県農業総合センター「ナシ黒星病に対する『梨病害防除ナビゲーションシステム』(ナシナビ)の適合性」
			千葉県「ナシ病害防除支援情報システム『梨病害防除ナビゲーション』」
②	落葉処理	黒星病	富山県農林水産総合技術センター園芸研究所「ナシ黒星病落葉処理マニュアル」
③	白紋羽病罹患の早期診断 (簡易挿入法)	白紋羽病	南信州農業振興協議会「白紋羽病の簡易診断～枝挿入法～」
			茨城県「ナシ枝を利用した白紋羽病罹病樹の簡易診断法」
④	白紋羽病の温水治療	白紋羽病	長野県「普及に移す技術「果樹類白紋羽病の簡易診断法『枝挿入法』の改良とほ場診断マニュアル」
			農研機構「白紋羽病温水治療マニュアル改訂版」
⑤	天敵（製剤/土着）の利用	ハダニ類	千葉県農林水産部「日本ナシにおける天敵カブリダニ類を主体としたハダニのIPMマニュアル」
			農研機構「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 ナシ編」
⑥	多目的防災網 + 交信かく乱剤 の利用	果樹カメムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 ハダニ類	千葉県農林水産部「日本ナシにおける天敵カブリダニ類を主体としたハダニのIPMマニュアル」
			農研機構「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 ナシ編」

総合防除の実践事例



実践のきっかけ

ハダニ類による落葉被害に悩んでいる…。抵抗性をなるべく発達させずに持続的に防除できる方法はある？

実践技術：土着天敵を活用したハダニ類防除

(取材地域：千葉県船橋市、白井市)

実践概要

- 品種/作型 : 幸水・豊水ほか/露地ナシ
- 実施時期 : 生育期通じて実施
- 対象病害虫 : ハダニ類
- 実施の判断・きっかけ : ハダニ類による落葉被害が発生していた。薬剤の連用による抵抗性の発達も気になっていたところ、普及指導員や他生産者の勧めにより導入。

■ 作業プロセス

- ① 圃場環境の整備：下草管理（株元草生）を実施。収穫期前に軽く刈るなどして、一定の作業性は確保する。多目的防災網の設置も実施。
- ② 天敵に優しい薬剤散布：非選択性の殺虫剤は5月末までを基本とし、その後は選択性殺虫剤を主に使用。
- ③ 日々の観察：葉裏をよく観察し、発生状況を見て防除判断を随時行う。

■ 使用資材・コスト

- ・ (特段の資材の追加は不要)



株元に草を残しておくのがポイント！
→ハダニの天敵となるカブリダニ類のすみか・増殖源となる

白井市生産者圃場の様子 (11月上旬) ↑

実践の効果コメント・アドバイス



- ◎ ハダニの発生が穏やかになった。落葉被害の軽減はもちろん、被害が出る前に対処ができる圃場環境になったことに効果を感じている。
 - ◎ 特に多忙な収穫時期の防除作業が軽減したことが良かった。作業負担や「すぐに薬をまかないと…」という焦りも減り、心理的負担も軽くなった。
 - 天敵製剤を使わないので導入のコスト負担がほぼないことも良い。もし土着天敵がうまく働かなくても、当年は「効く剤を撒く」という選択肢があるので安心。
- アドバイス：一気に天敵利用までいかなくとも、最初はず「天敵に優しい農薬の選択」から始めて、徐々に圃場環境を整えていけばよい！

実践のポイント

■ 作業のポイント

- ・ 梅雨明け～夏にかけてハダニの発生が多くなる場合があるため、よく観察する。
(例) 葉裏にクモの巣状の網が見えたら密度が高い。
(例) 圃場内で風通しの悪い箇所は発生しやすいので、重点的に見る。
- 天敵に影響の少ない殺ダニ剤を1度散布し、密度を下げてコントロール。
- ・ 農薬の選択についてはリストを参照（千葉県により作成）し、残効や発生状況を見て判断。

■ 注意点

- ・ 少しのハダニ発生は許容する意識が大事。一方で「どこまで我慢するか」がポイントであり難しいところ。
- 迷う場合は普及員や周囲に相談する。

失敗事例



梅雨時期に、空梅雨 + 予想外の高温続きで、
ハダニ防除のタイミングを逃してしまった…

ハダニが発生しやすい条件（高温乾燥など）を理解することもポイント。
日々の観察を基本に、例年と異なる状況の場合は早めに相談し、
対応を検討してみましょう！

総合防除の実践事例

実践のきっかけ



白紋羽病の症状が出てきてしまった…。何か有効な対策はあるか？

実践技術：白紋羽病に対する温水点滴処理技術

(取材地域：千葉県船橋市)

実践概要

- 品種/作型 : 幸水・豊水ほか/露地ナシ
- 実施時期 : 5月～10月頃 (梅雨時期は不可)
- 対象病害虫 : ナシ白紋羽病
- 実施の判断・きっかけ : 白紋羽病の症状が少し見えてきたため、県試験場の情報や普及指導員の勧めにより実施。

■ 作業プロセス

- ① 対象の樹を検討：症状が出始めの樹及びその周辺樹を対象に実施。
 - ② 灌水チューブを配置：各樹の周りにチューブを配置しマルチなどで被覆。
 - ③ 温水を灌水：50°Cの温水を灌水し、3～6時間かけて灌水する。
- ※1回の処理で最大8樹処理可能。2～3年に1回程度の実施にしている。



← 白紋羽病発病枯死樹周辺への
予防的な温水治療の様子

■ 使用資材・コスト

- ・ 温水処理機一式：約150万円 (今回はJAからの貸出のため無償)
- ・ ランニングコスト (灯油・水道・電気代)：1回あたり約500円/樹 (千葉県試算)

実践の効果コメント



- ◎ 3年前に処理し、治療の効果を感じている。処理樹は今も健全。
- 処理した圃場や樹に対しては、少なくとも2年ほどの効果の持続を感じている。今後も2～3年に1回、予防としても処理を継続したい。
- △ 効果はあるが、1回の時間と労力負担が大きく課題である。

実践のポイント

■ 作業のポイント

- ・ 症状が重くなっている樹では手遅れのため、白紋羽病に弱い若木を優先に予防的に実施することが重要。その場合、周辺樹にも感染していることが多いため周辺樹も処理対象とする。

■ 注意点

- ・ 地温を確保することが重要なため、暖かい時期 (5～10月まで) に実施する必要がある。一方で、収穫時期と重なるため、前もった作業の計画や日程確保が必要。
- ・ 作業自体は難しくはないが、機械の移動・チューブの設置など、作業時間と労力がかかる。

本技術の注意ポイント



発病している樹を処理したけど、効かなかった…

地上部が目に見えて衰弱している状態の樹の場合、
地中の殺菌はできても回復はできない。
「枝挿入法」などで早期に発見できた樹や周辺樹を対象とすると、
効果が実感できるはず。

#13 生産者と一緒にリードする総合防除の普及（天敵利用/発生予察/草生栽培）

技術名	対象病虫害	地域	対象作物
天敵（土着/製剤）の利用を中心とした総合防除	ハダニ類	千葉県（船橋市・白井市）	ナシ

①取組のきっかけ

■ ハダニ類の薬剤抵抗性の発達

- 慣行の防除暦どおりに防除しても、収穫期になるとハダニが発生し黒変落葉してしまうなど、被害が問題化していた。
- 殺ダニ剤に頼りすぎる防除は持続しない

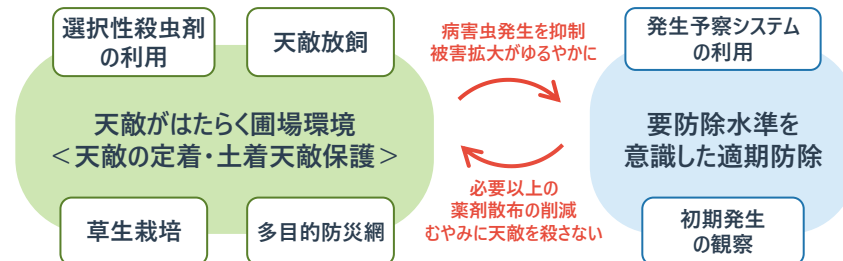


キーマン生産者

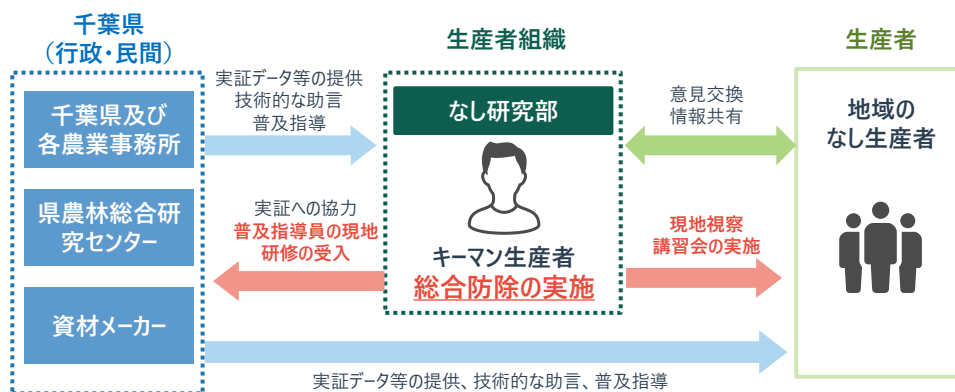
当初は「虫で虫を抑えられるのか？」と疑問だった。農業センターやメーカーでの実証・検証データを見て、実際に効果が出ていたので信頼して、導入を開始。

②普及技術

■ 天敵（土着/製剤）の利用を中心とした総合防除



③連携体制・普及方法



■ 経験値・技術力のある生産者を核に、総合防除を推進

- 千葉県（行政・民間）においては、キーマン生産者に対して実証データ等の提供や技術的な助言、指導を実施し、総合防除の実施を伴走的に支援。
→キーマン生産者の技術力向上をサポート。
- キーマン生産者は自身の経験値をもとに、現地視察や講習会を通じて地域の生産者への普及推進を実施。総合防除の実施拡大に寄与。
→生産者だけでなく、若手普及指導員の現地研修の受入も実施し、普及指導力の向上にも寄与。

生産者と一体となって、地域での総合防除の普及・防除技術の底上げを図る！

成果と普及時の課題

#13 生産者と一緒にリードする総合防除の普及（天敵利用/発生予察/草生栽培）

④成果

■ ハダニ類の防除

- ハダニ類の発生が穏やかになり、早期落葉をすることがなくなった。
- 発生や被害が急激に増加・拡大することがないため、急いで薬剤散布をする必要がなく、仕事の段取りがつけやすくなり、身体的・精神的負担も減った。

■ 殺ダニ剤の削減

- 慣行では2～3回の使用だったが、1～2回の使用に減らすことができた。

■ 病虫害防除に対する意識の変化

- 総合防除を考える前は、防除暦どおりに防除を実施し、発生時には闇雲に薬剤をまいていたが、現在は天敵のはたらきや防除すべきタイミングを意識し、合理的な防除に取り組めるようになった。
- 害虫や天敵についての観察眼も磨かれた。

⑤成功のポイント



■ 「総合防除」「天敵の利用」の正しい理解の促進

- 天敵を導入するだけで「総合防除」というイメージを持たれることが多いが、「化学的・物理的・耕種的防除と生物的防除（土着天敵・天敵製剤）とを組合わせて実施する合理的な防除」であることを普及。
- ハダニ類や天敵カブリダニ類の違い、殺虫剤の選択方針など「なぜこの選択をするのか」をわかりやすく提示することで、正しい理解・実施を促進。



キーマン生産者

天敵導入時の普及指導員やメーカーの丁寧なサポートのおかげで防除を確立できた。

⑥普及時の課題



原因

やるべきことの優先順位付けや判断が難しい。

天敵がどのように作用するかイメージがつかない。

とはいえ、「総合防除」や「天敵の利用」って難しそう...

対策

千葉県

防除体系において、「必ずやるべきこと」「やってはいけないこと」「できればやるべきこと」の提示を実施。

キーマン生産者

「圃場内の食物連鎖」をキーワードに、天敵と害虫の関係性を説明。
→ 生産者目線でわかりやすく正しいイメージを普及。

